

重点テーマ:生物多様性の保全

目 標:

- ⇒鳥や虫たちが生息・生育する場所をつくる(オオタカ・カッコウ・トンボ・渡り鳥)
- ⇒自然観察路やビオトープを、ウォーキングや自転車で巡ることができる
- ⇒子どもたちが、街なかで虫を捕ることができる／校庭で生き物ウォッチングができる

①必要な取組み (※今後10年で何が出来るか)	②取組み上の課題 (※人・お金・ルールなど取組みを進める上で解決しなければならないこと)	③取組みを進めるための役割分担の考え方 (具体的に、だれが、なにをする?例:市民、市民活動団体、事業者、行政等)
<p>1. 生物多様性を保全する拠点</p>		
<p>水面 ○ヨシが生育する広瀬川を復元する。 ○四谷用水の水を街並みに入れていく。 ○調整池を活用してトンボ公園をつくる。</p>		
<p>農地 ○田んぼ・ため池を有効に活用する。 (田んぼ学校、冬田んぼ、休耕田ビオトープ)</p>		
<p>樹林地 ○民有地の緑を残す。 ○民間企業による森づくりを進める。 ○古い木を残す。</p>	<p>○商売として森林を開発したい人たちがいる。 ○保全の担保制のない樹林地がある。 ○土地の所有状況が分からない ⇒緑を残すことの社会的価値を評価することが必要。 ⇒土地所有者が残すことの価値を見出せるようにすることが必要。 ⇒開発する際は市民の意見を聞く。 ⇒ナショナルトラスト制度の導入による保全</p>	<p>【仙台市】 ○ナショナルトラスト制度を導入する。(維持管理の資金として活用) ○土地(森林)の寄贈・遺贈に対して、税金の優遇を行う。 ○保全樹林地を評価し、公開・非公開を決める。</p>
<p>都市部 ○市内の各建物の緑地率を20%とする。 ○学校の校庭・プール・駐車場を使ったビオトープづくり ○市民1人1人によるビオトープづくりを進める。 ○市街地に残る森林を全て保全する。 ○健全な水循環(雨水利用・四谷用水復元) ○ネットワークの拠点を形成する。(広瀬川・青葉山・農学部)</p>		<p>【市民・ボランティア】 ○みどりの公共性を意識する。 ○森林の下刈りを行う。 ○トラストに基金を行う。</p> <p>【企業】 ○企業の森を創出する。 ○トラストに基金を行う。</p> <p>【地権者】 ○土地(森林)の維持管理の保険に入る。 ○学校教育のため、森林を貸し出す。</p>
<p>2. みどりのネットワーク</p>		
<p>○自然林の連続性、緑の回廊を守る。 ○ネットワークの拠点を形成する。(青葉山・農学部) ○ビオトープのネットワークづくりを進める。 ○ビオトープ区域を指定する。</p>	<p>⇒道路や鉄道により緑が分断されないようにすることが必要。 ⇒企業、学校の協力をどのように得るのか。</p>	
<p>3. 普及啓発</p>		
<p>○生物多様性の国際会議の開催、ビオトープ大賞、写真・絵画コンテストによるビオトープの普及活動を進める。 ○子どもたちに自然のすばらしさを教える森づくり・人づくりを進める。 ○田んぼの生き物調査 ○生物多様性通信(居久根通信・花通信・ハイキング通信など)</p>	<p>○市役所内で生物多様性保全に対する考え方がバラバラ ⇒部局横断的な保全委員会を立ち上げる。 ⇒景観や開発関係課において保全を指導する。 ⇒市民が緑行政に対する評価を行うしくみをつくる。</p>	
<p>4. 市民協働</p>		
<p>○里山や都市公園の緑を守るボランティア活動の定期的実施する。 ○市民活動(子どもを含め)の仕組みをつくる。 ○地域を支える柱として、NPO法人を活用する。 ○環境保全活動団体のネットワークをつくる。</p>	<p>⇒人と人を結びつける機会・知識が必要。 ⇒市民力を総合的に集中させる仕組みが必要。 ⇒市民個々が参加をどう公募するか。広報に目的が必要。 ⇒環境に関心をもってもらう取組が必要。</p>	<p>【仙台市】 ○学校の授業の一環として、子どもたちを教育する。 ○環境ポイントカードを作り、市民参加を求める。</p> <p>【市民・ボランティア】 ○経験あるボランティアが、市民を指導・育成する</p>

重点的に議論した内容

重点テーマ:公園の魅力アップ

目 標:

- (生活に身近な小公園)子どもや高齢者が集まる／街なかのどこでも憩うことができる
- (総合的な市民公園)1日中居られる／みどりを実感できる(森林浴)／子どもの笑い声が聞こえる／お弁当を広げて食べたいくなる
- (テーマに特化した公園)魅力が特化、凝縮している(植生・学習・レクリエーション・アウトドアなど)／市内外から集まる
- (その他公園全般)明るく、見通し・風通しを良くする／安全に遊べる／きれい／利用者のマナーが良い

①必要な取り組み (※今後10年で何が出来るか)	②取り組み上の課題 (※人・お金・ルールなど取り組みを進める上で解決しなければならないこと)	③取り組みを進めるための役割分担の考え方 (具体的に、だれが、なにをする?例:市民、市民活動団体、事業者、行政等)
<p>生活に身近な小公園</p> <p>【維持管理】 ○地域の希望を聞いて公園をつくり、維持管理は地域自ら行う。</p> <p>【整備】 ○お年寄りが運動できる場所をつくる。 ○街なかに小さな憩いの場をたくさんつくる。</p> <p>【利用】 ○地域で公園を自由に利用して、紙芝居やクラフト、花火、芋煮会などの催しを行う。</p>	<p>○地域に人がいない、お金がない、道具がない、情報がない、権限がない。 ⇒地域で管理しやすい公園を整備することが必要。 ⇒地域で管理しやすい公園を整備することが必要。 ⇒地域の責任を持って管理するかわりに、自由に利用できる仕組みが必要。 ⇒住民が自主的にボランティア活動できる仕組みが必要。 ⇒人づくりが必要。</p>	<p>【仙台市】 ○地域による自主的な管理と自由な利用を促進する。(地域へ発信) ○できる地域から協定を結んでいく。</p> <p>【コーディネーター】 ○町内会や愛護団体以外の小さな活動組織づくりを担う。 ○実際に活動する人たちや仙台市との連絡役を担う。</p> <p>【住民・学校・会社等】 ○住民だけでなく、小中高・大学、会社、維持管理が得意な人たちの協力を得ながら維持管理する。</p>
<p>総合的な市民公園</p> <p>○公園利用を多面化させる</p> <p>○散歩ができるようにする。 ○花壇公園をつくる</p> <p>○公園のガイドを行う。(昆虫など)</p>		
<p>テーマに特化した公園</p> <p>○年代にあわせた遊歩道を整備する。 ○勉強できる公園をつくる。</p> <p>○特徴的な公園をPRする。</p>		
<p>その他公園全般</p> <p>○木の茂りすぎを解消する。(維持管理) ○木の育成を助ける工夫を行う。(維持管理) ○公園内の危険箇所を解消する。(維持管理) ○池などの水の淀みを解消する。(維持管理) ○きれいな水飲み場・トイレを設置する。</p>	<p>⇒専門家と一緒に活動する仕組みづくりが必要。 ⇒管理・運営するためには、市民ニーズの把握が必要。</p>	

重点的に議論した内容

重点テーマ:街のみどり充実

- 目 標:『わたしのちかくにみんなのみどり』
- ⇒目線で感じられる緑を豊かにする(緑視率)/美しい街並みを楽しむ
 - ⇒身近で緑を触れられる/子どもの頃から緑に親しむことができる
 - ⇒緑の配置を活かした城下町らしいまちにする

	①必要な取組み (※今後10年で何が出来るか)	②取組み上の課題 (※人・お金・ルールなど取組みを進める上で解決しなければならないこと)	③取組みを進めるための役割分担の考え方 (具体的に、だれが、なにをする?例:市民、市民活動団体、事業者、行政等)
身近なみどり	○保存緑地に指定されていない樹林地を保全する。	○保全の担保性がない。(枠組みがない) ⇒公有化(財源の問題がある) ⇒事業用地などを緑化する。 ⇒緑化のメリット、貢献度がわかるような工夫が必要。	【仙台市】 ○価値ある屋敷林を保全樹林して指定し、固定資産税を減税。 ○民有地緑化に対し、エコポイントを与える。 ○緑化によるCO2を換算する。
	○屋敷林を保全する。		【市民】 ○住宅周辺の緑の質を高める。 ○小さな用地でも町内会で緑化する。 ○マンション等のベランダでフラワーコンテストを実施する。
	○学校の森事業、通学路の緑化を進める。		【市民】 ○PTAなどがアイデアを出す。
景観と調和するみどり	○美しい街並みをつくる	⇒都市計画や条例による枠組みが必要。 ⇒無計画なビルをつくらないようにすることが必要。	
	○地域にあった木(郷土種)を取り込む。		
	○各団体で議論する場をつくる		
みどりを知る機会	○緑の価値や制度などを知ってもらう。	⇒みどりに愛着をもってもら(知ってもらう)	【仙台市】 ○愛着のわく名前をつける。(ネーミングライツ) ○CO2削減の看板をつくる。
		○みどりのことを詳しい人がどこにいるか分からない。	【市民・企業】 ○緑化の効果を伝える看板等を設置する。 【仙台市】 ○人材の情報提供を行う。 ○みどり検定を設ける。
みどりの維持管理		○管理が大変だから切ってしまう。	【仙台市】 ○市民向けの維持管理マニュアルをつくる。
			【専門家】 ○落ち葉や枝の堆肥化・粉末化を行う。

重点的に議論した内容

重点テーマ:みどりの拠点づくり

目 標:

- ⇒みどりのボリュームがあり、核となる／歴史・文化・自然を含む風土を大切にした都市のシンボル／市民意識に定着する
- ⇒多くの市民が利用できる／観光客(国内外)にアピールできる

①必要な取組み <small>(※今後10年で何ができるか)</small>	②取組み上の課題 <small>(※人・お金・ルールなど取組みを進める上で解決しなければならないこと)</small>	③取組みを進めるための役割分担の考え方 <small>(具体的に、だれが、なにをする?例:市民、市民活動団体、事業者、行政等)</small>
1. 拠点整備 ○コンパクトな市街地と市街地を取り囲む緑を拠点化する。 (伊達政宗が力を入れたまちとして) ○青葉山, 西公園, 大年寺山公園, 経ヶ峯公園等, 広瀬川とその両岸の公園を拠点エリアとする。 ○仙台の文化をみせるような整備をする。 ○来客を案内できる大規模な庭園をつくる。 ○歩いて楽しめるような整備をする。 ○安全安心に散策できる遊歩道・緑道などを整備する。	○みどりを使うだけでつくりあげていくことが少ない。 ⇒みどりへの投資が将来の財産になるか、費用対効果の算出し、示していくことが必要。	【市民】 ○みどりの拠点づくりへ継続的に参加する。 ○青葉通りや定禅寺通りなど沿道でみどりのメリットを受けている人・企業は、拠点づくりを負担する。 【仙台市】 ○ボランティア団体に機材の提供(貸し出し)を行うセンターをつくる。(車両、道具など) 【仙台市】 ○みどりの広報・PR、費用対効果の提示が必要。 ○緑のためのお金を集める役割を担う。 (例)市営バス広告スペースの活用 【市民・企業】 ○ボランティアに対して支援したいという企業の意向を実行に移す。
2. 拠点のネットワーク化 ○みどりの拠点を活かすネットワークづくりを進める。 (地下鉄・バスで結ぶ) ○拠点をつなぐみちをつくる。 ○青葉山駅と青葉山、青葉の森を緑道でつなぐ。 ○定禅寺通・青葉通の街路や民有地を含め、ネットワークを形成する。 ○四谷用水を取り入れ、緑をつなぐ。 ○ネットワーク上の住宅でオープンガーデンを実施。	○計画がバラバラ ⇒実現可能な計画であることが必要。	【仙台市】 ○みどりの拠点づくりのロードマップ、ガイドラインづくりを進める。
3. 拠点の魅力発信 ○拠点到まつわるエピソードを発信する。(iPadの活用した拠点ガイド、講座の復活) ○みどりに関わる人の拠点、心のネットワークの拠点、広報・情報発信・交流拠点を確保する。 ○拠点の中で市民参加できるイベントを開催する。	○誰がやるのか。(マンパワーが足りない)	【市民・企業】 ○緑の大切さを語り伝える役割を市民が担う。(講座の講師など) 【仙台市】 ○NPOや市民の取組み(講座等)の支援を行う。 ○関心の高い市民を巻き込むシステムづくりを行う。 ○自分の仕事の体験を活用した関わり方を各市民が 【関係団体】 ○人脈も持っている業界団体が主導する。 (公園緑地協会、造園協会等)

重点的に議論した内容